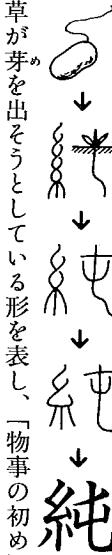


純

六年 純 純 純 純
筆順 オン ジュン
画数 ウン

成の立ち



草が芽を出そうとしている形を表し、「物事の初め」という意味を表した「屯」と、「糸」とを組み合わせて作った字です。

「まゆから取り出したばかりの糸」、「まだ少しも手を加えていない糸」を表した字です。

今は、糸にかんけいなく、「加工されていない」「飾りががない」という意味から、「まじりけがない」という意味に使われています。

「まゆから取り出したばかりの糸」、「まだ少しも手を加えていない糸」を表した字です。

今は、糸にかんけいなく、「加工されていない」「飾りががない」という意味から、「まじりけがない」という意味に使われています。

処

六年 筆順 画数 5
オシ シヨ
ク久 处 处
ウシ

成の立ち



足の形を表した「久」と、「こしかけ」の形を表した「几」とを組み合わせて作った字です。

「こしかけて足を『休める所』」を表した字です。

「居（年 687）」と同じく、「家に『いる』」意味に使います。〔例〕居處、出處、處士、處女。

また、「その人が『いる』のにふさわしい地位に置く」ことを「処置」と言いますが、その「処置」の意味に使われます。〔例〕善處、処断、処方。

〔旧字体は「處」で、虎（吳音はユ）と處との形声字である。もとは「居」と同音であった。〕

使い方

△赤ちゃんは純真です。うそいつわりがありません。だから、赤ちゃんの笑顔を見ると、こちらもつい、つっこりしてしまいます。赤ちゃんのような純粹な心をいつも持ち続けられれば良いのですが。

△サラブレッドは、純血種の競走馬です。走るために生まれて来た馬です。足が細くて、体はたくましく、風のように走ります。

熟語例

△純真（まじりけがないこと。「純粹な水」などというふうに、つかいます。また、心に邪念がなく、きよらかなことを言います。「純粹な動機で忠告したのだ」などと、つかいます。）

△純粹（じゅすい）（純粹な血統。異民族や、異種の動物の血がまじついていない血すじのことです。）

△純金（じゅうきん）（他にまじりものはない、純粹な金。「純金の指輪」などというふうに、つかいます。）

△純情（じゅうじょう）（けがれのない純粹な心）

六年

九二六

使い方

△わたしは「制服の処女」という映画を見たことがあります。寄宿舎で勉強している少女たちのお話で、最後がとても悲劇的でした。

△悪いことをした人は、法律によつて処罰されます。悪いことをしたなら、そういう処分を受けるのは、仕方ないことです。

熟語例

△居処（居る場所。「居所」とも書きます。「あの人は、いつも居處不明だ」などというふうに、つかいます。「住んでいる所」の意味にもつかいます。）

△出處（出るか居るか、という意味で、官職につくか、民間に居るか、ということを意味します。「出處進退を明らかにする」などというふうに、つかいます。）

△處士（民間に居て、官職につかない人）

△處女（家に居る女人の人、ということから、まだ結婚していない女人の人の意味です。「処女地」などともつかいます。）

△処罰（罰を与えること。）

△処分（罰を与えること。また、かたづけること。）

六年

九二七